

柴田元幸先生トークショー&サイン会
1/8/2018 HMV & BOOKS SHIBUYA

2018年1月8日(月・祝)、HMV&BOOKS SHIBUYA 6F イベントスペースにて、レアード・ハント著/柴田元幸編訳『英文創作教室 Writing Your Own Stories』(2017年11月刊)とマーク・トウェイン著/柴田元幸訳『ハックルベリー・フィンの冒けん』(2017年12月刊)の2冊の刊行を記念して、翻訳家の柴田元幸先生のトークショー&サイン会が開催されました。2冊がどちらも発売後2週間で重版が決定するなど、読者のみなさんの熱い注目を集めていることもあり、15時スタートのイベントには立ち見参加者を含めて約80名と、予想をはるかに上まわる多くのお客さまがご来場くださいました。

特に今回ご参加のみなさんは英語と翻訳に強い関心をお持ちのようで、柴田先生の1時間半を超えるお話に、熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

当日の流れは以下の通りです。

柴田元幸先生ご入場

『英文創作教室』について

レアード・ハントとの出会い、その人柄

本書ができた経緯

レアード・ハントがこの日のイベントのために寄せた音声メッセージ~柴田先生の解説

『英文創作教室』から Ryoich Imai, “Kamaukura”を例に、「講義→創作→アドバイス→改稿→コメント」の流れを紹介

『ハックルベリー・フィンの冒けん』について

この小説の魅力、語りの伸びやかさ、翻訳で工夫したことなど

著者マーク・トウェインの人生と作風

マーク・トウェインの一番最初に活字になった文章「いさましい消防士」(“A Gallant Fireman”, 1851年、15歳の時に執筆)と二番目の文章「伊達男、森の住人を脅かす」(“The Dandy Frightening the Squatter”, 1852年、16歳の時の作品)の朗読(先生がこの日のために訳しおろされました)

トークショー終了~サイン会

トークショー終了後、柴田先生にサインを求める人の列はしばらく途切れることはありませんでした。

『英文創作教室』関連のイベントはこのHMV&BOOKS SHIBUYAのものだけで、今後とも予定がなく、当日は本書についてのお話を中心となりましたが、柴田先生も「今日のお客さんはほんとうにすばらしかった」とおっしゃるほど充実したものになりました。その

中でも会場の注目を最大に集めました「レアード・ハントがこの日のイベントのために寄せた音声メッセージ」を、ここにご紹介します。

以下のページで音声がお楽しみいただけます。

https://youtu.be/1L-9p_i6imM

スクリプトはこちらからご覧ください。

http://www.kenkyusha.co.jp/purec/images/mokuji/Message_For_Moto's_Event_HMV_Shibuya_20180108.pdf

HMV&BOOKS SHIBUYA では、今も『英文創作教室』と『ハックルベリー・フィンの冒けん』を大きく展開していただいております（柴田先生のサイン本もございます!）。ぜひお立ち寄りください。



